

[平成20年度参考となる技術]

[技術名] 褐色米に対する薬剤の防除効果と防除時期

[要約] アゾキシストロビン水和剤、メトミノストロビン粒剤はアルタナリア菌、カーブラリア菌による褐色米の発生を抑制する。アゾキシストロビン水和剤の散布は出穂後 10 日頃、メトミノストロビン粒剤の水面施用は 6 月下旬頃が防除適期である。

[キーワード] 褐色米、防除薬剤、防除時期、アルタナリア菌、カーブラリア菌

[担当] 農業試験場・生産環境部・病理昆虫研究グループ

[連絡先] 電話 0776-54-5100、電子メール n-honda-s4@pref.fukui.lg.jp

---

[背景・ねらい]

玄米表面が黒褐色となる褐色米の混入は、福井米の品質を低下させる要因の一つである。本病は夏の異常高温やフェーン風、少肥栽培で発生が多くなるとされており、今後、多発生が予想される。しかし、本病に関与する病原菌の種類は多く、開花期に穎内に飛び込んで感染することから、難防除病害とされている。

そこで、本病に対する既存農薬の防除効果の評価と新たな防除効果の高い薬剤の選抜を行い、薬剤選択の資料にする。

[技術の内容・特徴]

1. アゾキシストロビン水和剤の散布およびメトミノストロビン粒剤の水面施用は *Alternaria alternata* による褐色米の発生を抑制する (図 1、2、3)。
2. アゾキシストロビン水和剤の散布は *A.padowickii* による褐色米の発生を抑制する。しかし、メトミノストロビン粒剤の水面施用の防除効果はやや低い (図 1、2、3)。
3. アゾキシストロビン水和剤の散布およびメトミノストロビン粒剤の水面施用は、*Curvularia* 属菌による褐色米の発生を抑制する (図 1、2、3)。
4. アゾキシストロビン水和剤の散布適期は出穂 10 日後頃である (図 4)。
5. メトミノストロビン粒剤の水面施用適期は出穂 44 日前頃 (6 月下旬) である (図 4)。

[技術の活用面・留意点]

1. 褐色米防除効果のある薬剤の中で、変色米 (褐色米) で薬剤登録されている薬剤はアゾキシストロビン水和剤のみである。
2. メトミノストロビン粒剤は変色米 (褐色米) で農薬登録されていないが、いもち病、紋枯病に登録されている。
3. 感染時期 (開花期) に病原菌飛散密度が高いと防除効果が著しく低くなる。

[具体的データ]

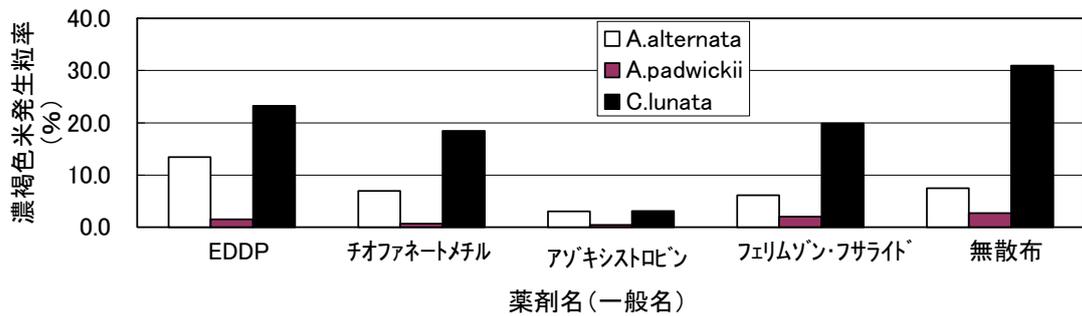


図1 散布薬剤の褐色米抑制効果 (接種・ポット試験)

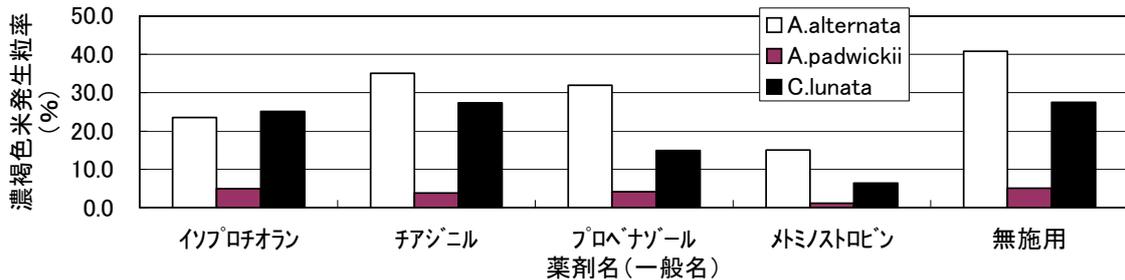


図2 水面施用剤の褐色米抑制効果 (接種・ポット試験)

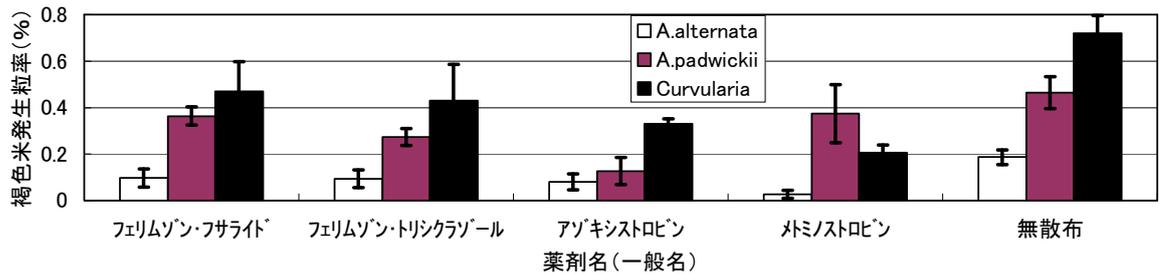


図3 圃場における薬剤の褐色米抑制効果 (2007年・バー標準誤差)

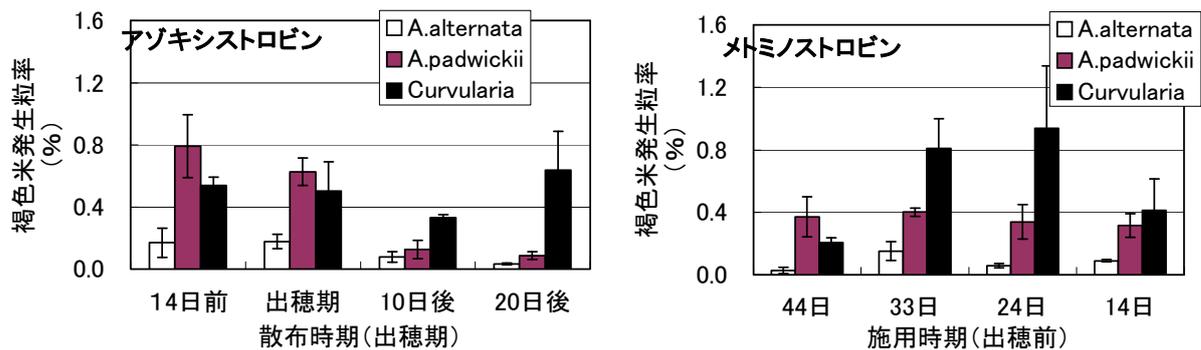


図4 圃場における薬剤処理時期と褐色米防除効果 (バー標準誤差)

[その他]

研究課題名：褐色米の発生防止技術の確立

研究期間：2006～2008年度

研究担当者：本多範行